一般社団法人日本地質学会2022年度総会

一般社団法人日本地質学会 2022年度総会議事録

- 1. 日時 2022年6月11日 (土) 14:00~15:45
- 2. 場所 Zoomオンライン会議システムに よるWEB会議形式
- 3. 出席役員

理事:磯崎行雄(代表理事 会長)·佐々木 和彦(副会長)·平田大二(副会長)

天野一男・芦 寿一郎・安藤寿男・ウォリスサイモン・内野隆之・大藤 茂・岡田 誠・尾上哲治・笠間友博・亀田 純・川端清司・小松原純子・小宮 剛・斎藤 真・坂口有人・杉田律子・高嶋礼詩・内藤一樹・中澤努・奈良正和・西 弘嗣・根本直樹・野田篤・星 博幸・細矢卓志・松田達生・松田博貴・三田村宗樹・矢島道子・緒方信一・亀高正男・矢部 淳・山口飛鳥 以上、理事36名

4. 監事:岩部良子・山本正司 以上,監 事2名 議長および議事録作成者

総会開催にあたり定款24条に従い本日出席の 代議員から、議長として向山 栄代議員を選出した

議長は審議開始に際し、オンライン会議システムにより、出席者が一堂に会するのと同等十分な議論を行うことができる環境であることを確認した。次に総会規則第15条に従い書記として佐藤大介代議員ならびに佐藤友彦代議員を指名し、同時に議事録署名人として、両名を指名した。

5. 議事の経過の要領及びその結果 出席社員の確認

代議員 (=社員) 総数 105名 議決権総数 105個

 定足数
 53個

 出席者数
 84名

(議場出席者36, 議決権行使書26, 委任状22) (議決権行使書は、1号及び3号議案に対して それぞれ反対1あり)

議長は、出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数53名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った.

第1号議案 2021年度事業報告・決算報告・ 監査報告

1)中澤常務理事より、資料にもとづき2021 年度の事業報告があった。昨年度行われた 事業内容、執行理事会および理事会議決・ 承認事項について報告が行われた。学術大 会を、2021年9月4~6日に名古屋大学をホ スト校として開催した。新型コロナウィル ス感染を考慮して完全オンラインでの開催 とした。巡検や地質情報展は開催を控えた が、シンポジウム・セッションや表彰・記 念講演等はオンラインで開催した。本年度

の受賞者の中には初めて5名もの女性会員 が含まれた. 秋に開催を控えた地質情報展 は、 当初計画よりも規模を縮小したものの 2022年2月19~20日に名古屋市科学館にて 開催し,多くの一般客を集めた.また,斎 藤 眞会員らが地質情報展の企画・運営に 対して文部科学大臣表彰(科学技術賞)を 受賞した. 地質学雑誌については、2022年 1月から完全電子化をした影響もあり投稿 数は若干増加した. Island ArcのIFは1.558 だが次回はさらに上がる可能性がある. 普 及活動では, フォトコンテストで例年同様 多数の応募があった. 地質の日では今年度 は現地開催を再開したイベントが多かった ことなどが報告された. 国際連携では、磯 﨑会長より2024年開催予定のIGC (韓国) で計画されている竹島巡検や巡検案内での 日本海表記に関する問題について説明があ った. その後, 中澤常務理事より, 引き続 き学会運営として地質学雑誌の完全電子 化, 表彰制度の見直し, 会員種別の見直し のタスクフォースや会員管理システムのク ラウド化. 支部ではコロナ禍でのオンライ ンを活用した様々な活動が展開された旨の 報告がなされた. 執行理事会および理事会 議決・承認事項として、44名の会員を50年 会員顕彰することや各賞選考委員会による 各賞受賞者(功績賞1件, H.E.ナウマン賞 1件, 小澤賞1件, 柵山賞2件, Island Arc 賞1件, 論文賞1件, 研究奨励賞2件, 学 会表彰1件)の提案が承認されたことなど が報告された. また, 法地質学研究委員会 が新たに設立され, 委員長の川村紀子会員 から挨拶、紹介があった. 最後に磯﨑行雄 会員, 糸魚川淳二会員(故人), 伊藤谷生会 員, 竹内圭史会員, 橋目敏行会員, 山路 敦会員から寄付があり、 謹んで篤志をお受 けした旨報告があった.

なお、2021年5月から2022年5月までに逝去された会員および今年度において逝去が判明した会員17名(うち名誉会員3名)に対し、黙祷を捧げた.

2)会計担当の緒方理事から、2021年度決算について報告があった。2021年度は単年度約500万円の黒字で引当金の取り崩しも無かったことが報告された。ただし、継続的な会員減少が原因で、2年前に比べると会費収入は50万円減少している。支出では、年会開催事業はオンライン開催により支出額は例年同様90万円超であった。続くコロナの影響で支部活動の支出は少なかった。管理費もオンライン会議が継続されていることや事務局の勤務状況により支出が減少した。繰越収支差額実質的には全体収入の30%を超過しているが、全額繰越金とした。

その後、山本正司監事より監査報告があり、事業報告および計算書類等について適正であることが報告された。

1号議案について、書面で6.社会貢献【地質標準関係】においてJIS規格を論文等で使用を半ば強制している点について反対意見があった。これに対して中澤常務理事より、地質学会(地質学雑誌)としてはJIS規格の使用を推奨はしているが受理要件とはしていないとの説明があった。また、多額の寄付について寄付者からの具体的な使途要望があったのか質問があり、中澤常務理事より、寄付についての情報はニュース誌(2021年12月号)で紹介した通り、若手野外地質研究者育成を目的とした寄付であり、理事会では若手に対しフィールドワーク賞、研究奨励金の設置を検討しているとの説明があった。

本議案について採決の結果, 賛成多数 (議場:36, 議決権行使書:25, 議場委任: 22), 反対1 (議決権行使書:1) で承認さ れた

2号議案 代議員および理事選挙結果報告

飛田選挙管理委員長より, 現理事が本総会終了と同時に任期を満了し退任となるため, 代議員および理事選挙を実施した旨報告があった. 代議員立候補者の当選結果, 代議員からの理事立候補者の当選結果が報告された. 「小中高」の所属階層からの立候補が少なかったが, 若い世代の立候補が例年に比べて多かった. 選挙管理委員会は, 開票も含め全てオンラインで実施された.

2号議案について、理事選挙で、代議員地 方支部区からの選出枠が各1しかないのは少ない、理事選出を希望する場合は、代議員選 挙の際に全国区で立候補をするため、地方支 部区での立候補者数が定員割れする状況につ ながっている、選挙の構造的に問題があるの ではないかとの意見があった。

本議案については、全会一致(議場:36, 議決権行使書:26,委任状:22)で承認された。

3号議案 2022年度事業計画

磯崎会長より、2021年度の本学会の事業成果を踏まえた2022年度の事業計画の基本方針が示された.早稲田大会では現地開催を目指す.コロナの状況によってはオンライン開催への変更も想定しているがハイブリッドでの開催はしない.出版活動については,和文誌は若手啓蒙のために新規の特集号を企画していく.広報・普及活動では,web,SNS発信を強化していき,HPも動きのあるものに変えていく.

年代表記については、今後もよりよくして

3号議案について、1号議案同様に書面で 6.社会貢献「国際年代層序表の国際層序委員 会の国際年代層序表の日本語版の更新や層序 単元登録の体制整備を進めるとともに、JIS を含めたこれら地質標準の普及を図る」こと に対し、「日本地質学会は、問題点の指摘を 考慮せず一方的に標準化を進めており、地質 学雑誌等の査読においてJIS規格の地質年代 用語の使用を強制している」ことを理由とす る反対意見があった. これに対して磯崎会長 より、1号議案同様、地質学会としてはJIS規 格の使用を推奨はしているが論文等で必須と していない旨の説明があった.

本議案について採決の結果、賛成多数(議 場:36, 議決権行使書:25, 委任状:22), 反対1 (議決権行使書:1) で承認された.

4号議案 2022年度予算案

緒方理事から、2022年度収支予算案につい て説明があった. 会費収入は, 会員が減少傾 向のため、80名減少を想定. 支出について、 出版事業は電子化の効果で100~300万円ほど 昨年より減少見込み. 年会は参加者を750名 と想定し、対面のため例年通りの850万円を 計上. 支部等活動事業は, コロナ前同様の 150万円を計上していることなどが説明され

本議案について採決の結果、全会一致(議 場:36, 議決権行使書:26, 議場委任:22) で承認された.

5号議案 名誉会員の選出

佐々木副会長より、推薦候補者3名につい て紹介があった.

5号議案については、一部推薦文の誤字の 指摘があったため、執行部に一任して字句を 修正することとした.

本議案について採決の結果、全会一致(議 場:36、議決権行使書:26、委任状:22) で 承認された.

6号議案 定款の変更

7号議案 運営規則および総会規則変更

決議内容、決議・承認に必要な議決数が異 なるため議案が分かれているが、第6号議案 (定款の変更), 第7議案 (運営規則および総 会規則変更の変更) は「学会活性化に関わる 会費などの変更」と「表彰に関する規則の変 更 に関するもののため、合わせて説明があ

「学会活性化に関わる会費などの変更」に ついては佐々木副会長より説明があった. 学 生層の入会拡大を狙い、ジュニア会員・学生 会員の新設, 学生会員を対象にしたパック制 会費の導入する. またシニア層の在会延長の ため, シニア会員を新設し, 会費と大会参加 費等を低減するなど変更点が示された. 施行 は来年度2023年4月から.

「表彰に関する規則の変更」について、磯

╏ いくために検討していくことなどが説明され │ 崎会長より説明があった. 国際賞を都城秋穂 賞に変更、ナウマン賞をH.E.ナウマン賞に変 更, 日本地質学会フィールドワーク賞の新設 - など変更点が示された.

> 6号議案の定款変更の決議は、定款第60条 の定めにより総代議員数の3分の2以上の賛成 が必要だが、採決の結果、全会一致(議場: 36. 議決権行使書: 26. 委任状: 22) で承認 された.

> 7号議案についても採決の結果 全会一致 (議場:36, 議決権行使書26, 委任状22) で承 認された.

> 以上をもって審議を終了した. 最後に磯崎 会長より, 本総会をもって退任するにあた り、副会長・常務理事はじめ執行理事会、理 事会への謝意が述べられ、ここで学びたいと 若い人が思える学会にしてほしいと学会への 想いと次期体制への期待を込めた挨拶があ り, その後議長は閉会を宣言した.

> > 2022年6月11日

以上、決議を明確にするためこの議事録を 作成し、議長、副議長および出席理事がこれ に記名,押印する.

> 一般社団法人日本地質学会2022年度総会 総会議長 向山 栄 議事録署名人 佐藤大介 議事録署名人 佐藤方彦 磯﨑行雄 代表理事 理 事 中澤 努 以下, 理事氏名省略